

平成 23 年度 事業報告書

平成 23 年 4 月 1 日から 24 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人女性技術士の会

1 事業の成果

科学技術発展のための普及啓発事業及び女性の職域に関する普及啓発活動では、女性技術者のキャリアに関する座談会の実施（協力）、教育機関の要請に応じ職域紹介に関する講座の実施、各種イベントへ参画しパネル展示を実施する等各種の活動を展開した。サイエンスアゴラではNPOとして単独でブースを設けた。

国際会議における交流事業では、国際女性技術者・科学者ネットワーク日本支部（INWES-J）の運営に参画している。今年度はアデレードにて国際会議（ICWES15/3年ごとの国際会議）が開催され、8名の会員が参加。初の試みとしてワークショップを主催し、国際会議における日本の技術者の存在感を出すことが出来た。日韓女性技術士との交流会も継続している。

仕事と生活の調和を目指した社会基盤整備啓発事業としては一般市民を対象にシリーズとして展開しているまちづくりに関するシンポジウムを開催し、成果をリーフレットとして集成した。その後イベントなど機会あるごとに配布、ホームページでも公開している。

また、今年度は高専機構主催の行事・「2011年度 高専女子フォーラム」の後援、他団体との意見交換会など新たな取り組みも行った。

なお、東日本大震災の復興関連業務に携わる会員も多く、「技術者として何が出来るか」を会として検討、被災地域の学生を対象にした支援のための基金設立をはじめ、イベントのテーマには震災も視野に入れて選定するなどした。支援事業は今年度のみならず長期間にわたり継続する予定である。

2 事業の実施に関する事項

事業名	内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
科学技術発展のための普及啓発事業	技術サロン(日本技術士会)への協力。JABEE 課程及び理工系の女子学生と女性技術士の交流の場を設け、技術士資格や技術者キャリア形成に関して活発な意見交換を実施した。	6月25日 9月17日 12月10日 3月3日	(社)日本技術士会会議室 他	10	JABEE 課程及び理工系の女子学生、技術系社会人等約40名	13
	技術士第一次試験合格者・JABEE 課程修了者ガイダンスにおいて登録グループWPETFの活動紹介(協力)を行った。	1月29日	東京都	3	修習技術者等約200名	0
	東日本大震災復興支援事業基金の設立ー被災地域の小中学生・理工系女子学生を応援するための基金を設立。今年度は4回の技術サロンへ7名の女子学生を招待した。	6月25日 9月17日 12月10日 3月3日	(社)日本技術士会会議室 他	1	東北地方在住学生9名	140

女性の職域に関する啓発事業	理科系大学等でのキャリア形成、職域紹介等の講演(徳山高専、山梨大学、香川高専)ー女性技術者に実際会い、話す機会は学生にとって刺激になっている。	4月7日 5月20日 1月14日	該当大学等		6	理科系女子学生他約150名	0
	「サイエンスアゴラ」において「理系の仕事ー復興の現場でもー」とのテーマを設け、理系の職業紹介等のパネル展示を行い、女性技術者の職域を紹介した。また、簡易液状化の実験は好評であった。主催：独立行政法人化学技術振興協会(JST)	11月19～20日	国際交流大学村(東京・お台場)東京国際交流館		12	女子高生・保護者約300名	55
	個人の活動記録をファイルしたポートフォリオの原稿の募集を継続した。	年間	会員の事務所		5	理科系女子学生及び一般500名	0
	女性技術者に対して実施した仕事に関するアンケートの募集の継続。ICWES15発表のバックデータとした。	年間	会員の事務所		9	女性技術士及び一般不特定多数	0
国際会議における交流事業	国際女性技術者・科学者ネットワーク日本支部(INWES-J)へ会員を派遣し運営に参画した。	年間	INWES-J 事務所他	委員4		海外含む女性技術者不特定多数	0
	国際女性技術者・科学者ネットワークの3年に一度の会議であるICWES15へ参画。ポスターセッション：日本の女性技術者の現状、ワークショップ：世界の女性技術者の労働事情(以上主催)、今回初めてワークショップを主催、国際的な繋がりも広がり、活動をより推進することが出来た。	7月19日～22日	オーストラリア・アデレード		20	海外含む女性技術者不特定多数	11
	日韓女性技術士交流会において、日本側は「災害に対する地域継続力を支える女性技術士のアウトリーチー東日本大震災の教訓をふまえてー」と題して発表。後半はチマチョゴリ体験もあり相互理解を深めた。	10月13日	韓国・大邱市		13	日韓女性技術士20名	9

<p>仕事と調和を 目指した社会基盤 整備啓発事業</p>	<p>一般市民向けに「おもしろ いまちづくり」シリーズの 第4弾。ーリスク回避の生 活術を考えようーとの主題 のもと講演に続き、ワーク ショップ形式で生活者とし て準備出来ることを検討。 成果としてリーフレットを 作成した。</p>	<p>10月1日</p>	<p>港区コトブキ D Iセンター</p>	<p>11</p>	<p>技術者及び一 般 15名</p>	<p>39</p>
<p>その他目的を達 成するための必 要な事業</p>	<p>HP 更新により法人活動の普 及啓発のための情報を発 信、充実に努めた。</p>	<p>随時</p>	<p>法人事務所他</p>	<p>3</p>	<p>不特定多数</p>	<p>7</p>
<p>その他目的を達 成するための必 要な事業</p>	<p>法人活動の定期的な広報を 目的として「ニューステ ー」を発行した。</p>	<p>4、7、10、1 月末発行</p>	<p>法人事務所他</p>	<p>6</p>	<p>不特定多数</p>	<p>0</p>

平成22年度 特定非営利活動に係る事業 会計収支計算書

平成23年 4月 1日 から 平成24年 3月 31日まで

特定非営利活動法人 女性技術士の会

(単位：円)

科 目	金 額	
(経常収支の部)		
I 経常収入の部		
1 会費・入会金収入		
会費収入 (21, 22年度分)	17,000	
会費収入 (23年度分)	156,000	
会費収入 (24, 25年度分)	19,000	192,000
2 事業収入		
(1)女性の職域に関する啓発事業		
ポートフォリオ売上	8,000	
(2)仕事と調和を目指した社会基盤整備啓発事業		
シンポジウム参加費	45,000	53,000
3 補助金等収入		
地方公共団体補助金収入	0	
民間助成金収入	0	0
4 寄付金収入		
寄付金 (技術サロン招待費用として)	140,000	
寄付金 (震災支援としてバザー売上分)	17,000	
寄付金 (震災支援として)	5,000	
その他寄付金	7,000	169,000
5 その他収入		
利息収入	110	
任意団体からの繰入金	0	110
6 その他の事業会計からの繰入	0	0
経常収入合計		414,110
II 経常支出の部		
1 事業費		
(1)科学技術発展のための普及啓発事業		
技術サロン		
交通費 (招待費用)	140,000	
会議費	2,279	
印刷製本費	6,800	
通信運搬費	3,800	
アゴラ		
印刷製本費	30,396	
実験用消耗品費	2,821	
人件費	14,500	
通信運搬費	6,370	
会場費	1,260	
手数料	105	208,331
(2)女性の職域に関する啓発事業		
通信運搬費 (PFの送付)	4,310	4,310
(3)国際会議における交流事業		
ICWES		
印刷製本費	10,050	
通信運搬費	640	
日韓		
会議費	9,492	20,182
(4)仕事と調和を目指した社会基盤整備啓発事業 (シンポジウム)		
会議費	19,332	
交通費	20,000	39,332
(5)その他目的を達成するために必要な事業		
ホームページ維持費	7,430	7,430

2	管理費			
	総会費用	29,662		
	会場費（理事会、リーダー会、企画部）	32,900		
	会議費	3,880		
	事務用品費	748		
	通信運搬費	1,140		
	交際費	9,000		
	手数料	910	78,240	
	経常支出合計			357,825
	経常収支差額			56,285
III	その他資金収入の部			
1	固定資産売却収入			
	その他の資金収入合計			0
IV	その他資金支出の部			
1	固定資産取得支出			
	その他の資金支出合計			0
	当期収支差額			56,285
	前期繰越収支差額			671,319
	次期繰越収支差額			727,604
	(正味財産増減の部)			
V	正味財産増加の部			
1	資産増加額			
	当期収支差額（再掲）		56,285	
2	負債減少額		0	
	増加額合計			56,285
VI	正味財産減少の部			
1	資産減少額			
	当期収支差額(再掲)（マイナスの場合）			
2	負債増加額		0	
	減少額合計			0
	当期正味財産増加額（又は減少額）			56,285
	前期繰越正味財産額			671,319
	当期正味財産合計			727,604
	(注記) 備考の5を参照			